

21

画像所見：前縦隔に辺縁に脂肪吸収値、内部に軟部吸収域を伴う円形腫瘤を認める。

解答 d

a 誤 胸腺腫は一般に脂肪は含まないと思われる。

b △ 脂肪肉腫の可能性もないわけではないが、20歳に脂肪肉腫が発生するのは稀と考
える。

c 誤 霜降り状に軟部吸収域が混在するのが特徴であり本例とは合致しない。

d 正 若年発生で前縦隔に脂肪を含む腫瘍を見た場合、第一に考慮すべき疾患である。石
灰化は66例中35例(53%)に認められたとの報告があり、石灰化はなくても矛盾はない。

e 誤

22

画像所見：胸部X線では両肺にびまん性粒状影を認める。

CTでは両肺にびまん性の小葉中心性分布を示す粒状病変が見られる。

解答 d

a 粟粒結核、b 肺転移はいずれもランダムな分布を示すと思われ誤り。

c. 誤 小葉中心性の病変であることは合致するが、一般には非対称性の分布を示すと思わ
れ、本例とは合致しない。

d. 正

e. 誤 慢性経過を示す疾患である。気管支壁肥厚と拡張を有することが多く本例とは合致
しない。

23

画像所見：両肺に斑状のすりガラス吸収値病変が散見される。石灰化を伴う結節性病変も
見られる。いずれも小葉中心性を示す傾向にある。

解答 e

高カルシウム血症や慢性腎不全などのカルシウム代謝異常を持つ患者で石灰化を伴う結節
が見られればまずこれを疑う。両肺のすりガラス病変も本疾患の所見として合致する。

a b c 石灰化を伴う結節が説明できない。

24

画像所見：右S2や左S3に気管支拡張や小葉中心性を示す粒状病変。左S6には気管支拡
張があり mucoid impaction を伴っている。

解答 e 気管支喘息症状があり、上記画像所見から考えられる疾患のうち、選択肢の中であてはまるものはこれのみ。

25

画像所見：右上葉に微小結節の癒合したような結節性病変あり。背側には小葉中心性を示す粒状病変の集簇像も見られる。

縦隔、両側肺門リンパ節腫大を認める。

解答 d

右上葉に微小結節の癒合したような結節性病変があり、いわゆる **galaxy sign** を示す病変の鑑別となる。d または e を考えるが、背側の小葉中心性分布を示す病変を伴っていることから d と考える。縦隔肺門リンパ節腫大もサルコイドーシスとして矛盾しない所見。

以上、解答 21～25 は荒川利直会員（名古屋市立大学）